

# 企画趣旨

私たちは、「メインストリーム協会」・「日本自立生活センター」・「立命館大学生存学研究センター立岩班」の有志によるグループです。

私たちは、「旧国立療養所解放プロジェクト」というプロジェクトを実施し、現在日本国内に存在する筋ジストロフィー患者を収容する病棟を持つ27の病院で、可能な限り、地域移行が進むように活動を行っております。

つきましては、1970年代から現在までの「旧国立療養所」現在の独立行政法人病院機構の成り立ちと経緯、その中でも病院を退院し、地域で暮らす筋ジストロフィー患者の方たちがいることを広く市民の皆様にも知ってもらうべく、このような催しを開催することになりました。

## ● 渡辺一史氏プロフィール

---

1968年生まれ。中学・高校・浪人時代を大阪府豊中市で過ごし、1987年、北海道大学理Ⅱ系入学と同時に札幌市に移り住む。1991年、北大文学部行動科学科を中退後、北海道を拠点に活動するフリーライターに。2003年刊の『こんな夜更けにバナナかよ』で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社ノンフィクション賞、2011年刊の『北の無人駅から』でサントリー学芸賞、地方出版文化功労賞などを受賞。最新刊は『なぜ人とひとは支えあうのか』（ちくまプリマー新書）。現在は、札幌市在住。

## ● 立岩真也氏プロフィール

---

1960年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。現在は、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。専攻：社会学。

著書：『私的所有論』（勁草書房、1997年）、『弱くある自由へー自己決定・介護・生死の技術』（青土社、2000年）、『不如意の身体ー病障害とある社会ー』（青土社、2018年）、『病者障害者の戦後ー生政治史点描ー』（青土社、2018年）等。